

第 656 回

日本小児科学会東京都地方会講話会

プロ グ ラ ム

日 時 2019年 7月13日(土) 午後 2時 00分

場 所 東京医科大学新病院 9階 講堂



世話人

プログラム係 石毛 美夏
日本大学小児科 03(3293)1711

(FAX) 03(3292)2880

会場係 熊田 篤

東京医科大学小児科 03(3342)6111

(FAX) 03(3344)0643

事務局 03(5388)7007

e-mail: jpstokyo-office@umin.ac.jp

次回以降開催予定日

2019年9月14日(土) 東京医科大学新病院 9階講堂

2019年10月12日(土) 飯田橋レインボービル 7階

2019年12月14日(土) 東京医科大学新病院 9階講堂

2020年1月11日(土) 東京医科大学新病院 9階講堂

第 656 回 日本小児科学会東京都地方会講話会演題

(1題6分、指定発言5分、追加討論3分以内、厳守のこと。○印演者)

第1グループ 14:00—14:30

座長 遠藤 周 (順天堂大学小児科)

1) 尿管ステント挿入術を行った間欠性水腎症の1例

○大田みずほ¹⁾、渡邊 駿¹⁾、加納佳奈子¹⁾、春日 晃子¹⁾、高松 朋子¹⁾、森地振一郎¹⁾、
石田 悠¹⁾、山中 岳¹⁾、柏木 保代¹⁾、河島 尚志¹⁾、中神 義弘²⁾、林 豊³⁾
(東京医科大学小児科)¹⁾、(同 泌尿器科)²⁾、(同 消化器外科・小児外科)³⁾

10歳男児。5歳時に反復する腹痛を契機に左間欠性水腎症と診断された。10歳時に左腎孟尿管移行部閉塞による水腎症増悪と後腹膜への溢尿を認めた。抗菌薬および尿管ステント挿入にて改善し、待機的に腎孟形成術を施行した。間欠性水腎症は消化器症状を呈すことが多く、見逃されやすいため、超音波検査などが診断に有用と考えられた。

2) CTX-M-14型 Extended-spectrum β lactamase 產生大腸菌による上部尿路感染症の1例

○佐藤 義剛¹⁾、上條 香織¹⁾、三輪 善之¹⁾、外山 大輔¹⁾、三川 武志¹⁾、松橋 一彦¹⁾、
福地 邦彦²⁾、阿部 祥英¹⁾

(昭和大学江東豊洲病院こどもセンター)¹⁾、(同 大学院保健医療学研究科)²⁾

1歳女児。Extended-spectrum β lactamase (ESBL) 產生大腸菌による上部尿路感染症に罹患した。膀胱尿管逆流現象を有し、退院後約2週間で再発したが、初発時も再発時も非カルバペネム系抗菌薬で治療した。遺伝子検査により ESBL の酵素型が CTX-M-14 like と判明した。

3) 当院におけるロタウイルス胃腸炎入院症例の検討

○京 清志¹⁾、春日 悠岐¹⁾、高野 智圭²⁾、小川えりか¹⁾、石毛 美夏¹⁾、浦上 達彦¹⁾、
牛島 廣治²⁾、渕上 達夫¹⁾ (日本大学小児科)¹⁾、(同 医学部病態病理学系微生物学分野)²⁾

ロタワクチンの導入後、ロタウイルス胃腸炎による重症患者数は減少した。しかし、近年は年長児の入院症例や、ロタウイルスの新たな遺伝子型の報告もされている。今回、2019年2月～5月までの期間で、当院にロタウイルス胃腸炎で入院した児のワクチン接種歴や臨床像、ウイルスの遺伝子型などを分析した。文献的考察を加え、報告する。

第2グループ 14:30—14:55

座長 藤中 義史 (都立大塚病院新生児科)

4) 生下時からの肺高血圧症の一因に片側性肺動脈低形成が示唆された3歳男児例

○権守 延寿、武田 桃子、古河賢太郎、石川 悟、森 琢磨、飯島 正紀、安藤 達也、
井田 博幸 (東京慈恵会医科大学小児科)

片側性肺動脈低形成は先天性心血管形成異常のひとつで、乳児期から心不全や肺高血圧症を呈することがある。本症例は生下時から3年間、前医にて肺低形成と慢性肺疾患に伴う肺高血圧症と診断され治療に難渋していた。3歳時で当院に紹介となり、造影CT検査で片側性肺動脈低形成と確定診断し、肺高血圧症の一因と考えられた。

指定発言 篠原 玄 (東京慈恵会医科大学心臓外科学)

5) 母体の乳房から感染したと考えられる表在型新生児ヘルペスの1例

○生形 有史、梶保 祐子、原 理沙、寺田有美子、柿本 優、豊福 悅史、高橋 千恵、
大和田啓峰、神田祥一郎、垣内 五月、岡 明 (東京大学小児科)

日齢20の母乳栄養男児。口唇の水疱に対し近医でバラシクロビルを開始され、日齢28より当院でアシクロビルを2週間点滴静注した後、半年間の内服へ移行した。児の発症に先立ち母の左乳頭にも水疱を認め、非典型な感染源と考えた。新生児ヘルペスにおける家族からの感染経路や長期アシクロビル投与の必要性について考察を交えて報告する。

休憩 14:55—15:05

感染症だより 15:05—15:25 (講演:15分+質疑応答:5分)

座長 和田 紀之 (和田小児科医院)

砂川 富正 (国立感染症研究所感染症疫学センター)

教育講演 (iii 小児科領域講習) 15:25—16:25 (講演:50分+質疑応答:10分)

座長 千葉 康之 (ちばこどもクリニック)

臨床現場で役立つ母乳育児支援

水野 克己 (昭和大学小児科)

母乳推奨が母親を追い詰めるという風潮から、母乳育児推進の動きは抑えられる方向にある。そうはいっても母親は“本能的にわが子を母乳で育てたい”という思いもある。子どもの成長発達を診る専門家である小児科医が母親の思いに寄り添いながら、目の前の母親と児にあわせた“母親ファースト”的母乳育児を支えていくことが望まれる。小児科医には、母乳育児の留意点を知り、現状の母乳育児をアセスメントでき、母親をエンパワーメントすることが望まれる。つまり、母乳育児支援は小児科医が関わるべきことであり、助産師任せではいけない。

休憩 16:25—16:30

第3グループ 16:30—17:00

座長 桃木 恵美子 (日本大学小児科)

6) 後天的な多発肺囊胞性病変から気胸を発症した脳性麻痺の男子例

○藤井 聰子^{1),2)}、前川 貴伸¹⁾、本多 愛子^{1),2)}、諸岡進太郎¹⁾、早川 格³⁾、船田 桂子⁴⁾、
樋口 昌孝⁴⁾、宮寄 治⁵⁾、中村 知夫¹⁾、窪田 満¹⁾、石黒 精²⁾
(国立成育医療研究センター総合診療部)¹⁾、(同 教育研修センター)²⁾、
(同 神経内科)³⁾、(同 呼吸器科)⁴⁾、(同 放射線診療部)⁵⁾

14歳男子。早産極低出生体重児、脳性麻痺による強い筋緊張に対し髓腔内バクロフェン療法、在宅酸素療法を継続中。1歳時に重症肺炎の既往がある。外来受診時に酸素飽和度低下と片側性の呼吸音減弱を認め、胸部X線で気胸と診断した。胸部CTで多発囊胞性病変を認めた。感染や筋緊張が囊胞性病変形成と気胸発症に関与した可能性が考えられた。

7) 背部痛と下肢脱力を反復し脊髄 Dynamic 造影 MRA により診断した脊髄動静脈膿の 5 歳女児

○岡崎 菜摘¹⁾、田口 寛子²⁾、田村 雅人³⁾、武内 俊樹³⁾、高橋 孝雄³⁾

(慶應義塾大学卒後臨床研修センター)¹⁾、(同 臨床遺伝学センター)²⁾、(同 小児科)³⁾

3 歳時に背部痛・下肢脱力を認めたが完全に軽快、5 歳時の再発を契機に脊髄動静脈膿 (AVF) と診断した。脊髄 AVF では神経症状を呈するのは学童期以降のことが多いが、本症例は幼児期に発症し、一旦、軽快したために診断が遅れたと考えられる。脊髄 AVF は重大な後遺症を残し得る疾患であり診断の好機を逸しないよう注意が必要である。

8) 良性特発性新生児けいれんの経過中に生じたミダゾラムによる脳幹解放現象

○渡邊 雅慧^{1),2)}、宮田 世羽²⁾、阿部 真麻²⁾、鶴田 雅敏²⁾、本田 聖子²⁾、大熊こずえ²⁾、楊 國昌²⁾ (稻城市立病院)¹⁾、(杏林大学小児科)²⁾

日齢 4 から全般性間代発作が群発した。脳波異常を認め、新生児発作と診断した。フェノバルビタールを開始後、発作は消失し、良性特発性新生児けいれんと診断した。日齢 19 に MRI 検査のためにミダゾラムを投与したところ、ミオクローヌス様の発作が出現したが、発作時脳波では異常なく、ミダゾラムに誘発された脳幹解放現象と考えた。

第 4 グループ 17:00—17:25

座長 嶋 晴子 (慶應義塾大学小児科)

9) 呼吸障害を認めた縦隔腫瘍の 2 例

○林 昂彦、玉一 博之、石橋 武士、谷口 明徳、栗本 朋子、寺尾梨江子、高田 オト、藤村 純也、清水 俊明 (順天堂大学小児科)

13 歳男児、17 歳男子。小児腫瘍性疾患の臨床において縦隔腫瘍はしばしば経験される疾患である。腫瘍の増大により気道狭窄や上大静脈圧迫などをきたし、致命的な経過をたどることがあるため、速やかな診断と適切な治療介入が重要となる。当院で、上気道症状や呼吸苦の出現から診断に至るまで時間を見要した 2 症例を経験したので文献的考察を含め報告する。

10) 軽微な受傷機転による急性硬膜外血腫から Fanconi 貧血の診断に至った 1 例

○森田 俊平¹⁾、清水 一秀²⁾、田村友美恵¹⁾、鈴木 智典¹⁾、水野 朋子¹⁾、柳町 昌克¹⁾、高木 正稔¹⁾、森尾 友宏¹⁾、稻次 基希²⁾、前原 健寿²⁾

(東京医科歯科大学小児科)¹⁾、(同 脳神経機能外科)²⁾

4 歳女児。軽微な受傷機転から急性硬膜外血腫をきたし当院で手術を行った。血液検査で貧血と血小板減少を認め精査を行ったところ、FANCA 遺伝子変異、染色体断裂試験陽性を認め、Fanconi 貧血の診断に至った。急性硬膜外血腫の原因はほとんどが外傷だが、稀に易出血性の基礎疾患有することがあり、受傷機転が軽微な場合には、十分な精査が必要である。

指定発言 谷ヶ崎 博 (日本大学板橋病院小児科)

【運営委員会だより】

1. 第656回講話会（2019年7月13日）プログラム編成について報告があった。今回も指定発言がついた演題が少ないので、指定発言をつけて頂くよう事務局よりお願いすることになった。
2. 第656・657・658回講話会の教育講演および感染症などについて、講師と座長が確認された。
3. 2019年度の子どもの健康週間パンフレットについて、執筆担当とテーマが確認された。
4. 次期プログラム委員（9・10・12月分）は東京医科大学小児科熊田篤先生にご担当頂くことになった。
5. 小児診療初期対応（JPLS）コース開催について（公募のお知らせ）の概要を説明、検討したが今回は開催申請を見送ることになった。
6. 東京都地方会で作成する「緊急時を念頭にしたマーリングリスト」について、これまで715名（全会員の約33%）の登録があったことが報告された。
7. 第655回講話会（6月）の出席者は、250名、ベビーシッタールーム利用者は3名、前回講話会以降の新入会者は13名、退会者は2名であったことが報告された。

【演題の申し込みについてのお願い】

- ・ 動画が含まれる場合には、その旨を明示して下さい。
- ・ 原則として指定発言をつけて下さい。（共同演者から指定発言は頂けません）
- ・ 演題の締切は次のようにになります。
- ・ 運営委員会にて抄録の修正をさせて頂く事もございますので、原則としてご了承下さい。

講話会開催月	演題締切	講話会開催月	演題締切	講話会開催月	演題締切
1月	前年11月30日	2月	前年12月25日	3月	1月31日
5月	2月28日	6月	4月22日	7月	5月31日
9月	6月30日	10月	8月31日	12月	9月30日

申込演題が規定数を上回った場合、さらに1回先になることがありますのでご了承下さい。
その場合、事務局よりご連絡します。

【演者の先生方へのお願い】

- ・ 一次抄録は160字以内に。また、二次抄録は日本小児科学会雑誌に掲載されますので規定の200字以内を厳しく守りたいようお願い致します。（原稿はワード入力でe-mailにて事務局へお送り下さい。）
- ・ 出席した会員に発表の意味をより強く、明確に伝えるために、最後（または適切な時期）にTake Home Message（この発表から学ぶこと）を手短な一文で記したスライドを付け加えていただくようお願い致します。

【会員登録事項の変更届についてのお願い】

- ・ 自宅、勤務先の住所（プログラム送付先）等の変更または、改姓があった場合は、速やかに東京都地方会事務局までご連絡下さい。
- ・ 退会される場合も必ずご連絡下さい。そのお届けがない場合は次年度も継続として年会費の請求を致します。
東京都地方会事務局 e-mail : jpstkyo-office@umin.ac.jp / FAX : 03 (5388) 5193

【事務局よりご連絡】

- ・ 今回の教育講演には日本小児科学会専門医新制度における専門医共通講習または小児科領域講習の単位が付与されています。
受付開始から教育講演開始時間まで引換券を配布しますので、教育講演終了後から講話会終了までの間に引換券と聴講証とを交換して下さい。
なお、引換券は当日限り有効です。
また教育講演開始後に入场、及び終了前に退出された方には聴講証はお渡しできません。
- ・ 子どもの健康週間パンフレットは2016年版と2017年版も在庫がございます。ご希望の先生は事務局までご連絡下さい。なお在庫の関係でご希望部数をお送り出来ない場合がございますことをご了承下さい。
- ・ 7月13日（土）開催の第656回講話会より会場が東京医科大学の敷地内に新設されました新病院9階講堂での開催となりますのでご注意下さい。

Presentationについて

発表は Computer Presentation (Windowsのみ可、Macは不可) のみで受け付けます。MacのPC持ち込みによる発表はご遠慮下さい。Powerpoint 2000以上で作成、Font 文字は Powerpoint 備え付けのみ。CD-RもしくはUSBメモリーにて、第1、2グループ発表者は午後1時30分までに、第3グループ以降の発表者は午後3時までにスライド受付まで持参して下さい。機器操作は、当方で行います。あらかじめウイルス checkをお願い致します。

動画について

動画の発表にはトラブルが多いため、下記の方針をご理解いただきますようお願い致します。

- ① 一般演題での動画の使用はできる限りお控えいただくようにお願い致します。
- ② 動画の使用が不可避と考えられる場合、ファイルのセーブ法などの注意事項がありますので、学会事務局に必ず事前にご連絡下さい。
- ③ ②の場合にも、動画の映写にトラブルがあったときに備え、静止画像のみで構成された代替パワーポイントファイルをご用意下さい。当日、動画の映写が不可能と判断された場合には、代替パワーポイントファイルを用いて、時間通りに学会を進行させていただきますことをご了承下さい。

〈ベビーシッタールーム開設のお知らせ〉

乳幼児を同伴される方のために、ベビーシッタールームを開設します。利用ご希望の方は、利用日の**10日前**までに問診票をダウンロードし、必要事項を記載の上、事務局へe-mailまたはFAXでお申し込み下さい。問診票は東京都地方会ホームページにございます。利用当日、お子様が好きな食べもの・飲料・おもちゃ・着替え・おむつなどに名前を付けてご持参下さい。キャンセルされる場合は、3日前までにご連絡をお願い致します。連絡のないキャンセルの場合は、次回以降の利用をご遠慮頂く場合がございます。なお費用は学会が負担致します。

日本小児科学会東京都地方会事務局 TEL 03-5388-7007/FAX 03-5388-5193
e-mail : jpstokyo-office@umin.ac.jp

オススメ書籍のご案内



最新感染症ガイド R-Book 2018-2021

編集：米国小児科学会
監修：岡部 信彦
判型：菊判
頁数：1208
価格：19,000円+税

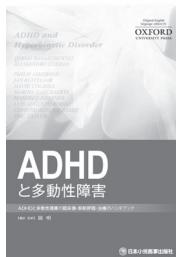


最新小児 皮膚疾患ガイド

編集：米国小児科学会
監修：秀道広、小林 正夫
判型：菊判
頁数：754
価格：13,000円+税

ADHDと多動性障害 ～ADHDと多動性障害の 臨床像・診断評価・治療 のハンドブック～

翻訳・監修：岡 明
判型：四六判
頁数：186
価格：5,000円+税



T式ひらがな音読 支援の理論と実践

～ディスレクシアから
読みの苦手な子まで～
著者：小枝 達也
関 あゆみ
判型：B5判
頁数：96
価格：3,000円+税



日本小児医事出版社

〒160-8306 東京都新宿区西新宿 5-25-11 2F
TEL : 03-5388-5195/FAX : 03-5388-5193

ホームページ

